

# データモデルWG活動報告 - 2024年度活動成果 -

2025-03-10

# GIFの利活用を推進するための検討

## 1. 背景

- 現在GIFでは社会の様々な場面で登場する個人や法人、住所や連絡先などの基礎的なデータモデルをコアデータモデルとして公開しているが、項目や定義を追加・削除するとともに記載レベルを統一し、より使いやすくする必要がある。
- 現状、システムの調達仕様書にGIFの準拠を求めること自体は可能だが、実際には何をもって準拠というのかの定義がなされていない。

## 2. 主な検討事項

- GIFコアデータモデル全体の見直しを実施し、使いやすさと相互運用性の向上を目指した改訂案を提示。
  - 改訂案のポイント：
    - データ項目を基礎項目と拡張項目に分離、基礎項目はデータ設計に必ず組込むべき項目、拡張項目は用途に応じて任意に追加する項目とした。
    - また、基礎項目は、データの利用用途に応じてデータ設計への組込を必須とする項目のパターンを設定した。
- GIFの準拠の定義としてシステム設計時や実装時の準拠ルール案を提示。
  - 準拠ルール(案)のポイント：
    - GIFが定義する、データの値の形式(コアデータパーツ)、データの構造(コアデータモデル)に着目。
    - これら(形式と構造)に対して、対象システムのデータがどのようなレベルで合致しているのかを評価する項目と手段の提供。

## 3. 展開状況

- GIFコアデータモデル・準拠ルールはデジタル庁による微修正の後、改訂版としてデジタル庁から公開予定。
- GIF準拠ルールに基づいた確認ツールを作成し、IMIサイトよりGIF活用情報として公開予定。

# GIFとIMIの今後の整備方針の検討

## 1. 背景

- GIFはデータモデル検討の際にIMIを辞書的に参照して利用しているが、明確な関係性を持っていない。
- このため、GIFとIMIで定義のずれ(ex.「GIFの個人」と「IMIの人型」など)が発生しており、利用者の混乱が生じかねない。
- GIFにとってのIMIの位置づけを明確にするとともに、IMIが持つ相互運用性をGIFで活用可能とする。

## 2. 主な検討事項

- 「GIFとIMIの位置づけ(案)」を検討。
  - 検討のポイント
    - IMIのコア語彙からコアデータモデル用の中間語彙を作成し、GIFはその中間語彙を参照する形とする。
    - これにより、GIFとIMIの関係性を明確化させるとともに、利用者が意識しなくても「実はデータはIMIでつながっている」を実現する。
    - **コア語彙の英語化**により、GIFの基軸となる英語用語名との整合を強める。
- コア語彙の英語化
  - 検討のポイント
    - GIFの用語名を中心にSEMIC/NIEMで用いている用語名との差異ができるだけなくなるように、コア語彙の用語に関する全英語名を再検討。

## 3. 展開状況

- 中間語彙(コアデータモデル語彙)の素案を作成。継続検討完了次第IMIサイトより公開予定。
- コア語彙の英語化は語彙定義を整備。確認完了次第IMIサイトよりコア語彙3.0として公開を予定。

## ■主査

頃末 和義

合同会社Center Diff

## ■委員（50音順）

奥井 康弘

株式会社ティージェイ総合研究所

下山紗代子

一般社団法人リンクデータ

高木 祐介

株式会社自動処理

武田 英明

国立情報学研究所

松澤 有三

インディゴ株式会社

IPA